

令和 8 年度第 3 回青谷地域振興未来会議 議事概要

日時：令和 8 年 9 月 2 9 日（火）午後 1 時 3 0 分～ 3 時 0 0 分

会場：青谷町総合支所 第 2， 3 会議室

【出席委員】

秋田典昭、井上智朗、浦島考雄、大谷茜、斎藤智範、田内伸一、棚田美紀雄、
長谷川優、浜野幸子、山田由理子

【欠席委員】

青木綾

【事務局】

＜青谷町総合支所＞

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、
高野産業建設課長、金崎市民福祉課長、能勢地域振興課課長補佐

＜地域振興課＞

坂本総括主査（総合支所エリアマネージャー）

【日程】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ 田内会長
- 3 議題

＜報告事項＞

- （１）【地域振興課】 総合支所エリアにおけるサービスのあり方の見直しについて
(資料 1)
- （２） 青谷町総合支所改修工事について (資料 2)
- （３） 地域おこし協力隊について (資料 3)

＜協議事項＞

- （１） 委員提案の対応状況について (資料 4)
 - ・ 民間施設との一時避難所に関する協定について (資料 5)
 - ・ 耕作放棄地の草刈り補助制度の創設について (資料 6)

(2) 令和9年度当初予算に向けて

(資料7)

4 その他

5 閉会

◎議事概要

<報告事項>

(1) 【地域振興課】総合支所エリアにおけるサービスのあり方の見直しについて

(資料1)

説明者：坂本総括主査（総合支所エリアマネージャー）

- ・平成16年の合併から22年が経ち、人口減少、DX(デジタル技術を活用した省力化)、働き方の変化、物価上昇などの変化に対応するため、本庁では毎年のように組織改編を行い効率化しているが、総合支所エリアでは組織や業務プロセスの見直しがほとんど行われてこなかった。
- ・見直しの目的は、業務プロセスを効率化し、住民の待ち時間の短縮、サービス提供体制の機動力・安定性の向上を図ること。
- ・総合支所の統廃合は考えていない。8地域の総合支所は存続させ、効率化で生まれた人・予算などの資源を地域振興に回せないかも併せて検討する。
- ・本庁に、副市長をトップに幹部職員、総合支所長で構成する本部会議を設置。その直下に、人事・組織・予算・財産を扱う課の課長級で構成する実装チーム、さらに支所の3つの課に対応する3つの部会を置く。
- ・8月26日に本部会議のキックオフを実施。10月9日に実装チーム、部会のキックオフを開催し、年度末までに各部会で問題点や改善項目を検討する。
- ・その後、実装チームが約1か月で中間方針案をまとめ、本部会議で審査。決定後、未来会議で中間方針を説明し、委員の意見を聴く。意見を反映した修正案、最終案を経て、最終方針を未来会議に報告する。
- ・住民への影響がある変更は、1月以降に総合支所だよりなどで3か月間周知し、令和10年4月に反映（予算、システム導入、組織機構改革など）する予定。
- ・委員の任期は今年度末までのため、再任される場合は、来年度の中間方針案の説明、

意見聴取にも協力してほしい。

【委員】資料 2 ページの「インターネットを活用した相談体制」で、「アウトリーチの回数が減り業務が効率化」とあるが、声かけなどの支援が減ることがよいことなのか。

【事務局】ここでのアウトリーチは、積極的に訪問する支援ではなく、相談のために出向く回数、時間を指す。オンライン化で移動時間が短縮され、その分相談件数に対応できるようになったという意味。

【委員】実装チームの構成員が総合支所の副支所長になっているが、なぜ支所長ではないのか。副支所長は地域振興課長を兼ねているため、部会との役割が重なるのではないか。

【事務局】支所長は本部会議の構成員で、案を審議する側。審議する側と実務を担う側を分けるため、権限を持つ副支所長を実装チームに置いた。役割が重なる点は、業務の中身によって、臨機応変に誰が参加してもよいと内部で説明している。

（２）青谷町総合支所改修工事について（資料２）

説明者：能勢地域振興課課長補佐

- ・一昨年度からバリアフリー対応、防災機能強化のため庁舎を改修してきた。庁舎の大規模改修は昨年度に完了。
- ・今年度は、防災備蓄倉庫の新設(平屋、延べ約 35 ㎡)と、駐車場整備などの外構工事を実施。すでに着工しており、年内の完成を目指す。
- ・完成後は、屋根付きのハートフル駐車場が利用可能になり、来庁者用駐車場の白線も引き直す。昨年度整備した 72 時間使用可能な非常用発電機と受水槽を合わせ、地域防災の拠点機能が強化される。
- ・工事期間中は入口付近にバリケードを設置しており、完了した箇所から撤去する。

質疑、意見等なし

(3) 地域おこし協力隊について(資料3)

説明者：能勢地域振興課課長補佐

■募集概要

- ・ 募集期間：7月1日～10月1日必着。募集人数は1名。
- ・ 活動内容の想定：地場産品(果物・梨・水産物など)の商品開発・販路拡大、SNS・ウェブサイトでの発信、耕作放棄地の活用に関する調査・企画と農業者との連携、地域づくり活動への参加、勤務先となるNPO法人への活動支援・地域活性化事業の推進。
- ・ 周知方法：移住マッチングサイト「SMOUT(スマウト)」、市・県・関係機関のホームページ、移住関連イベントでのチラシ配布。

■応募状況(現時点)

- ・ 応募は1件(兵庫県神戸市)。ほかに書類提出が2件あったが、住民票や運転免許証の写しなどが不足しており、再案内したものの返答がない。
- ・ SMOUTで「興味がある」と反応があったのは49人、そのうちメッセージのやり取りをしているのは9人。返信者は、「移住してみたい」が約8割、年代は40代が44%、50代が33%。反応があった人全体では「移住してみたい」が85%、20代が29%、50代が27%で、若い世代の関心もある。
- ・ 寄せられた声：夫婦での移住を検討、すぐにフルタイムの職に応募するのは難しい、任期後に農業を営みたいが耕作地や市の支援はあるか、運転経験が少なくても応募できるか、など。個別に回答済み。

■今後のスケジュール

- ・ 10月1日締切 → 書類選考(結果通知は10月13日まで) → 10月31日に二次選考(面接) → 最終結果は11月中旬に通知。

【委員】1名の場合の場合は選考で不採用もあり得る。その場合に再募集の予定はあるか。再来年度採用への再募集も可能か。やる気のある人が来て、青谷の未来に取り組んでほしいという思いがある。

【事務局】二次選考の結果が出るのは10月31日で、次年度予算の編成が12月頃になるとの関係から、再募集は期間が1か月無い程度になる。再募集できるかは検討が必要。

【委員】採用後の地域としてのバックアップ体制は。

【事務局】所属は外部団体のNPO法人であるが、支所としても、月1回の定例報告会で活動状況を確認し、着任時には関係団体や地元の方との顔合わせを行うなど、所属団体と連携しながら支援することを想定している。

【委員】協力隊員の住居は具体的にはどの辺りか。

【事務局】具体的には未定。NPO法人が鳥取市から空き家対策事業を受託しており、良い物件があれば、それでも可能。市営住宅も考える。

【委員】仕事以外でも、どこに住んで、どういうコミュニティと関係を持つかも非常に重要であるので、地域とのつながりに気配りをお願いしたい。

<協議事項>

(1) 委員提案の対応状況について

説明者：能勢地域振興課課長補佐（資料4、資料5）

田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）（資料6）

・耕作放棄地の草刈り補助制度の創設について（資料6）

■提案内容

- ・耕作放棄地の増加で雑草・害虫・鳥獣被害が近隣に及んでいるため、所有者などが除草する際の補助制度を作れないか。

■現状

- ・国：多面的機能支払交付金(農地・農道・水路周辺の草刈りなど)、荒廃農地を再び耕作できる状態に戻す交付金。
- ・県、市：県の「共生の里」事業(農村と企業等が連携する遊休農地再生)、市の遊休

農地再生利用事業(農地バンクを活用した借受・担い手探し・集積)。

- ・他市の例：所有者が業者に草刈りを依頼した場合に費用を一部補助(1 か所につき 1 回限り)する制度がある。ただし、所有者の草刈りだけを補助する例は全国的にも少ない。

■対応方針

- ・農地は個人財産であり、所有者の責任で維持管理するのが前提。自分でできない所有者には、シルバー人材センターや民間事業者を案内している。
- ・個人財産の管理に直接補助金を出すことは公平性の観点から難しい。ただし、放棄地の問題は周囲にも影響するため、各地区のまちづくり協議会などで地域全体の課題として共有してほしい。

・民間施設との一時避難所に関する協定について（資料5）

■提案内容

- ・ダイキンアレスが災害時の一時避難所になると地元で説明されているが、協定書などの明文化がないため、市との協定を結んではどうか。

■現状の整理

- ・市内の指定緊急避難場所は屋内 199 か所・屋外 276 か所、指定避難所は 32 か所
- ・青谷地域の指定緊急避難場所は、屋外 12 か所・屋内 15 か所。指定避難所は 2 か所（青谷高校:収容 1,011 人、青谷小学校:705 人）。
- ・協定に基づく避難場所は、市全体で県施設 2 か所・民間 38 施設あるが、青谷地域には現在ない。

■今後の対応

- ・施設側から申し出をもらえるか、まだ話はできていないが、ダイキン側と協議を進める。
- ・市との協定は条件調整に時間がかかるため、地域の自治会とダイキンアレスが直接、災害時の協定を結ぶのも有効な共助の手段であり、こうした柔軟な連携体制を含めて、検討、協議を進めていく。

・委員提案の対応状況（資料４）

※資料に沿って説明

- ・案件 2、5、6 をはじめ具体的な方向性が示せていない案件について、委員に進め方やアイデアをいただきたい。

【委員】案件 2「農地の基盤整備と後継者の確保について」は、財源の解決がない限り難しい」が結論になっている。

【委員】営農者だけで耕作放棄地を元に戻すことはすでに不可逆的な状態になっていることを皆さんにご理解いただきたい。質問とか解決策という話ではなく、現状を認識しておいていただきたい。衰退の一途を辿らざるを得ないという状況にある。

【委員】田んぼは治水ダムの役割を持つと学んだ。耕作放棄地が増えれば、豪雨の増える昨今は水害も増えかねない。

【委員】農地を農業者に限らず誰でも利用できるよう規制を緩和し、利用者から参加費を取ることを提案させていただこうと思う。県と市の補助事業で体験型民泊があり、青谷に来れば農業体験が気軽にできる場を広く作って、整備・草刈りに参加してもらおうというのもいいかなと思う。

【委員】楽しい提案をいただいたが、農地を耕している立場からすると、ちょっと来てやってみようかというレベルではなく、とても大変。耕作放棄地を現状復旧させるには、大きなエネルギーと莫大な費用がかかり、農業者だけの力では全く不可能で、どんどん増えている。元に戻すためには、大きなテコ入れ（財源）がない限りは不可能。

【委員】案件 1 について、営農者には手厚い補助があることは理解しているが、営農団体や企業が撤退して、大規模な耕作放棄地が出ているので、何かいい手がないかと提案させてもらった。所有者の考え方次第だが、田の場所が分からなかったり、「今のままでよい」と言ったりする所有者がいて責任感が薄い。行政から所有者に適切な管理を促す PR をしてほしい。大規模営農は個人では難しく、団体を作るか、企業を誘致する方法を考える必要がある。JA はほとんど力を貸してくれないため、自ら動く必要がある。

【委員】基盤が整っていないと大規模農家は入ってこない。基盤整備には多額の費用がかかり、耕作者の負担でやろうという人は出てこない。どこかで大きなテコ入れ(財源)がない限り不可能。後継者も、作りやすい農地ができて初めて入ってくる。

【委員】結局は担い手がいない。所有者が負担金を出して基盤整備をすることもなく、八方塞がり、「青谷の農地をどうするか」という議論から進める必要がある。

【委員】案件7「民間施設との一時避難所の協定」について、洪水の際に、勝部川から西側の地域で、勝部川が渡れなくなる状況を想定している。平成19年の洪水では国道9号も通行止めになった。施設側の申し出が前提でも、まず地元の自治会に相談に行ってみる。

(2) 令和9年度当初予算に向けて

説明者：田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）（資料7）

- ・令和7年度実績・令和8年度計画(因州和紙、地域振興の補助金、朝市、ようこそ館の委託料、地域おこし協力隊の予算など地域振興に関連する事業)を記載。
- ・委員の提案や意見を令和9年度当初予算につなげたいので、予算に盛り込みたい事業、見直したい事業があれば、意見をいただきたい。

【委員】卓球の競技人口は増えているのか。

【事務局】競技人口は把握していないが、青谷中学校が一昨年、中学から始めた生徒だけで県大会で優勝した。総合支所に設置した卓球台も、土日や夕方などに利用されており、やりたい人はいると考えている。青谷では、中学生向けのオープン卓球大会(11月末の土日)と、大人向けのラージボール卓球大会(1月下旬～2月中旬の予定)を開催。昨年度の大人向けの大会は約80人が参加した。

【委員】温泉の卓球のように、気軽に楽しむ形で競技人口を広げる方法もあるのではと思う。

【委員】町内には昔から卓球をしていた人が多く、大人のクラブチームもある。

【委員】昔は各公民館に卓球台があり、冬に子どもが遊んでいた。

【委員】青谷バスは「ゆくゆくは共助交通へ移行」となっているが、進捗や方向性は。

【事務局】町内の生活交通協議会で、「共助交通について検討する。検討の結論が出るまでの当面の間は、市が運行主体となって生活交通を維持する」という方針が出ており、それに基づき青谷バスが運行している。現在、各まちづくり協議会に共助交通の検討を依頼しており、状況把握等のため昨年 12 月にワーキンググループを立ち上げ、現在は 2 か月に 1 回開催して検討を進めている。

最近は動きも出てきている。前向きに検討してみようという地区や、2 つの地区が一緒になって共助交通の運行を検討してみようという動きがある。

【委員】これ以上不便になっては困る、という思いがある。

4 その他

■イベント情報（事務局）

- ・ あおやさんぽフェス
- ・ あおや鳴り砂ビーチフェスタ 2026（第 2 回鳴り砂クリーン作戦）
- ・ 青谷ようこそまつり
- ・ 青谷かみじちフェスタ 2026
- ・ 吉野ヶ里遺跡展（青谷かみじち遺跡公園）

■青谷地域の暮らしと公共施設を考えるワークショップの参加者募集等について

【事務局】参加者がまだ少なく、委員も参加、声かけをお願いしたい。ワークショップに関するアンケートは、参加の有無にかかわらず委員も回答してほしい。

■鳥取駅前再整備への意見募集

【委員】鳥取駅周辺の整備計画への意見募集が 12 日までとなっている。免許返納後の移動を考えると駅前の再整備は青谷にとっても重要で、市のホームページから意見を出せるので、皆さんも意見を出してほしい。

■あおやようこそまつりの花火について

【委員】以前は花火が上がっていたが、今年は「お楽しみ抽選会」になっている。理由は何か。

【委員】予算の問題。費用が高く、補助金だけでは賄えない。皆さんの声は届いているが、毎年開催できる価格ではなく、オリンピックのように4年に1回程度の開催を目指して、情熱もないとできない。

【委員】10月は寒さや雨が多く、花火が上がらないと人が少ない。夏のほうが人が集まり飲食の売上も上がるのではないか。夏から10月にずらしたのは少しもったいない。

【委員】実行委員:夏は食品の管理が大変で、夕方は西日が強く暑い、出店者の高齢化もあるなど、いろいろな事情がある。

【委員】クラウドファンディングで寄付を募る案、2年に1回の開催、ドローンショーといった案もあるが、ドローンもコストが高い。

【委員】昨年の花火は、近隣の地域の人から「すごい」「羨ましい」と言われた。

また、この度、「青谷駅つかい隊」が鳥取銀行の「青い鳥基金」から助成を受けることになり、10月1日に贈呈式を行う。来年3月22日に駅の駐輪場でイベントを開催予定。実行委員を募集している。